

## 被爆75周年記念事業が 決まりました



11の事業それぞれに平和への思いを託します

来年、被爆75周年の記念事業としての取り組みやイベントを募集したところ、11事業が選ばれ、11月8日、選定書が授与されました。

事業は、演劇や歌、語り、現代アート、民謡、茶会、講演会、被爆体験記や写真集、俳句集の出版など多彩。

被爆証言の掘り起こし・編さんや被爆者の声紋を爆心地公園の地面に描き出すなど、3つの事業が選定された長崎被災協の田中会長は「被爆の継承、一日も早い核廃絶のために一生懸命頑張ります」と述べました。

■問い合わせ 調査課(☎829-1147)

## 自治会活動による まちづくりの担い手へ感謝



住みよい地域づくりへのご尽力ありがとうございます

11月9日、市民会館でながさき自治振興推進大会を開催しました。感謝状を贈呈されたかたは次のとおり(敬称略、自治会長在職20年以上のかたのみを記載)。重橋照久、久米直、中村信昭、中村由一、濱下嘉壽雄、田川睦麿、辻郷國昭、鬼塚正史、中尾悟、中嶋正人、森山正文、後田知久、中島典久、中村清光、中本健、西川義孝、松尾博行、松尾道夫、松永光司、吉野定保、吉原孝。贈呈式の後には、磨屋通り自治会と住吉町自治会の地域活動が紹介されました。

■問い合わせ 自治振興課(☎829-1134)

## IT分野の研究開発拠点を 新たに開設



長崎の人材へ期待が高まっています

物流業界向けのソフトウェアの開発や販売を行うIT企業「セイノー情報サービス」が、業界の深刻な人手不足解消のため、BRAIS (BigData, Robot, AI, IoT, Sharing) を活用した研究開発拠点を長崎市に開設することになり、11月7日、同社と長崎市、長崎県が立地協定を結びました。鳥居社長は「理工系かつ地元志向の人材と、支援組織があるのかという観点で探し、長崎に進出することにした」と述べました。

来年4月に開設し、新卒者などを採用する予定です。  
■問い合わせ 産業雇用政策課(☎829-1313)

## マカオと長崎をつなぐ 架け橋に



マカオと長崎とのさらなる交流拡大が期待されます

10月28日、大浦地区を拠点に活動している「長崎居留地男声合唱団」の桐野耕一団長(右)らが市長を表敬訪問しました。

長崎とゆかりの深いポルトガルから中国へ返還されて20年を迎えるマカオを、11月に国際交流の一環で同合唱団員ら26人が訪問。大学やホテルでコンサートを開催することなどを報告しました。音楽や歴史文化・観光を通して、今後、両都市の合唱団や修学旅行生など若い世代間でも交流が広がることが期待されます。

■問い合わせ 国際課(☎829-1113)